

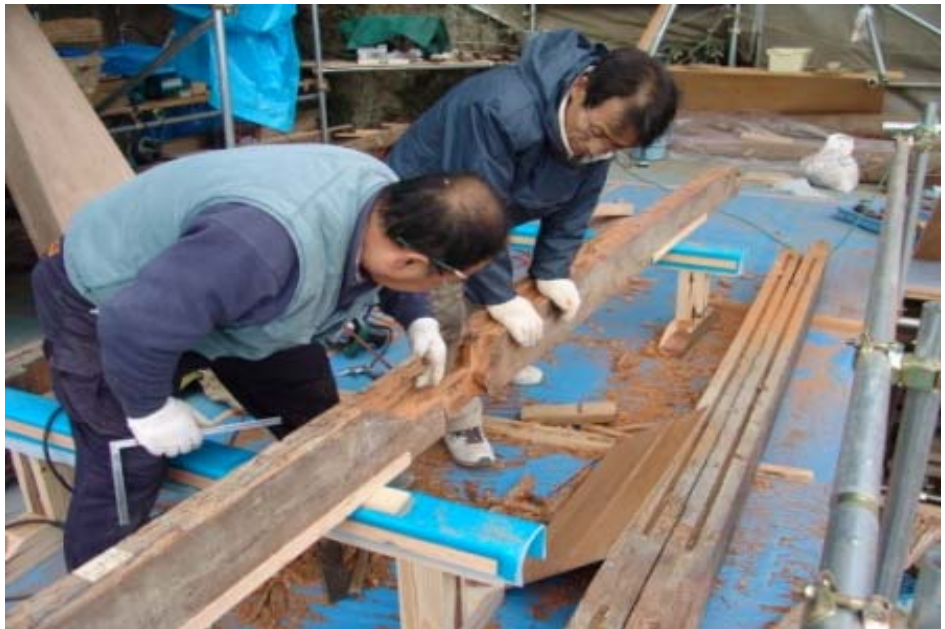
### 1. 本堂貫材の破損状況

本堂の頭貫、飛貫、足固め貫は各柱通りごとに一丁材が用いられており、中古材の背面足固め貫（各柱位置で継がれている）以外は当初材であった。貫材には松が用いられており、各部で腐朽や木喰虫による虫害が顕著であった。また、頭貫は柱の傾斜の影響で柱との取り合い部等で折損がしているものが認められた。



### 2. 本堂貫材の修理状況

本堂の飛貫や頭貫は、見付け面に室町期の墨書が多数記されており部材自体の資料的価値が高い。また貫材が3間通し材である建物の特徴を保全すること留意し、部材ごとに修理方法を十分に検討して慎重に工事を進めている。



### 3. 補足木材素材調達 の状況

本堂、求聞持堂、鐘楼には製品として市場での入手が困難な松、楠、榿材が主に使用されている。また9mに及ぶ長尺材や60cm近い幅の板材などの松材を補足する予定である。当現場においては補足木材を素材として調達し、大工の木取りにより製材することで、より当初の品質に近い補足材を確保するとともに木材利用の効率化を図っている。

